

# 感染症発生動向調査委員会報告 6月

## 《今月のトピックス》

- 咽頭結膜熱の報告数が増加しています。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 夏季に向けて、腸管出血性大腸菌感染症に注意が必要です。

## 全数把握疾患

### <腸管出血性大腸菌感染症>

21 件(O157 H7VT1VT2 9 件、O157 VT1VT2 12 件)の報告があり、うち 14 件(有症状者 8 名、無症状保菌者 6 名)は、大和市の同一の焼肉店での食中毒によるものです。他の 7 件については現在原因調査中です。通常、O157 などの菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉でも表面に菌が付着している可能性があります。O157 食中毒予防のためには肉の中心部までよく加熱(75℃で1分間以上)しましょう。また、生肉を箸でつまんだ際に O157 が箸に付着する可能性があるため、生肉を焼き網に載せる箸と、食べるのに使う箸は別にしたり、トングを使用しましょう。さらに、特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では、溶血性尿毒症候群(Hemolytic Uremic Syndrome:HUS)など重症化することがあるので、焼肉の喫食等には十分に注意しましょう。なお、感染者から 2 次感染することがあり、予防には手洗いが重要です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意がひきつづき必要です。

◆ 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

### <レジオネラ症>

ポンティアック型2件、肺炎型2件の報告がありました。ポンティアック型2件は60代、70代で、どちらも感染経路等は不明でした。肺炎型2件は80代、60代で、1件は自宅浴槽からPCR、培養検査とも陽性でした。もう1件は自宅浴槽からPCR陽性、培養検査中です。どちらも同居家族等の明らかな感染は認められませんでした。レジオネラ症には肺炎型とポンティアック型(ポンティアック熱)があり、レジオネラを含んだエアロゾルの曝露を受けた人たちから、0.1%-5%が肺炎型を発病することがあるのに対し、ポンティアック熱の集団発生が見られる場合には、レジオネラを含んだエアロゾルの曝露を受けた人たちの約90%がポンティアック熱を発病します。肺炎型は重症化することも多いですが、ポンティアック熱は、突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まるものの、一過性で治癒するため、集団発生でないと報告されにくいとされています。

### <アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症2件、腸管外アメーバ症3件の報告がありました。腸管アメーバ症2件のうち、1件はインドでの経口感染が推定されており、もう1件は感染経路感染地域等不明です。腸管外アメーバ症3件はすべて肝膿瘍で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

### <梅毒>

2 件の報告がありました。1 件は早期顕症梅毒Ⅱ期で、異性間性的接触でフィリピンセブ島での感染が推定されています。もう 1 件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触が推定されています。

### <風しん>

2 件の報告がありました。1 件は 20 代で発熱と発疹があり、IgM 上昇のため診断となりました。予防接種

歴は不明です。もう1件は40代で、発熱、発疹やリンパ節腫脹などの臨床症状とペア血清による抗体陽転化のため診断となりました。予防接種歴はありませんでした。

## 定点把握疾患

平成24年5月28日から平成24年6月24日まで(平成24年第22週から平成24年第25週まで。ただし、性感染症については平成24年5月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

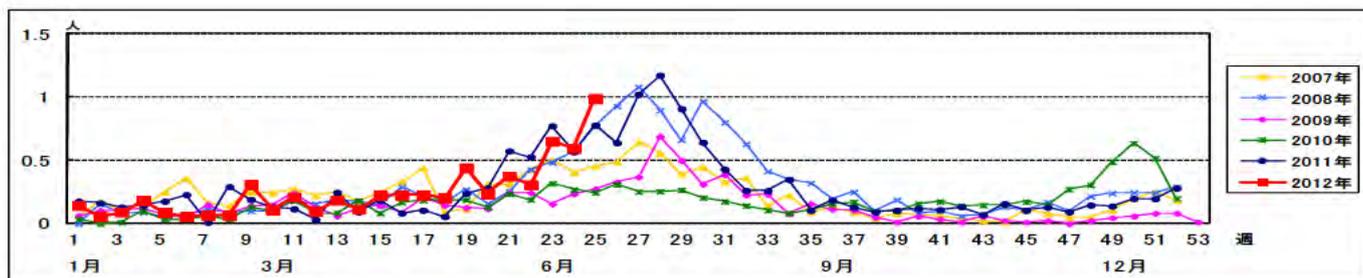
第22週	5月28日～6月3日
第23週	6月4日～10日
第24週	6月11日～17日
第25週	6月18日～24日

### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

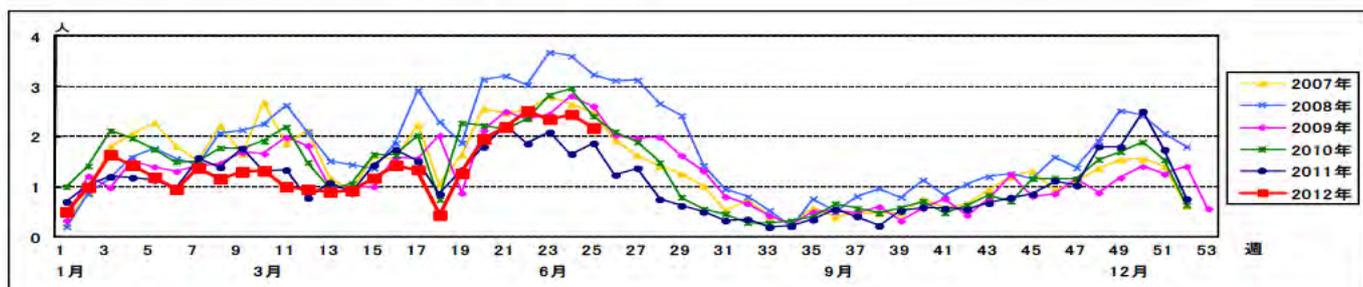
#### <咽頭結膜熱>

市全体で第25週0.99と増加しています。泉区では13.00と警報レベルを上回りました。例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています。



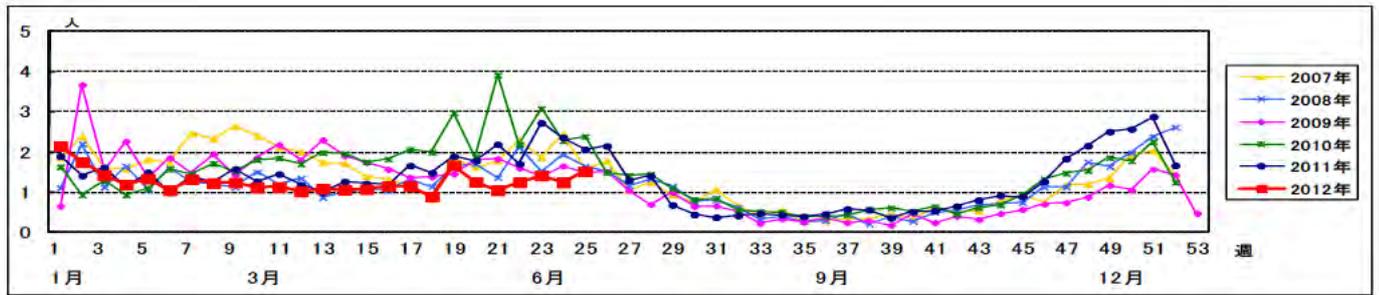
#### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

市全体で第22週に2.51と増加傾向でしたが、第25週では2.18とやや減少しました。区別では瀬谷区で第23週8.25、第24週8.50、第25週7.50と警報レベルを上回る状態が継続しています。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので、今後の注意が必要です。



#### <水痘>

市内全体で第25週1.52と落ち着いていますが、緑区で4.25と注意報レベルを上回っています。

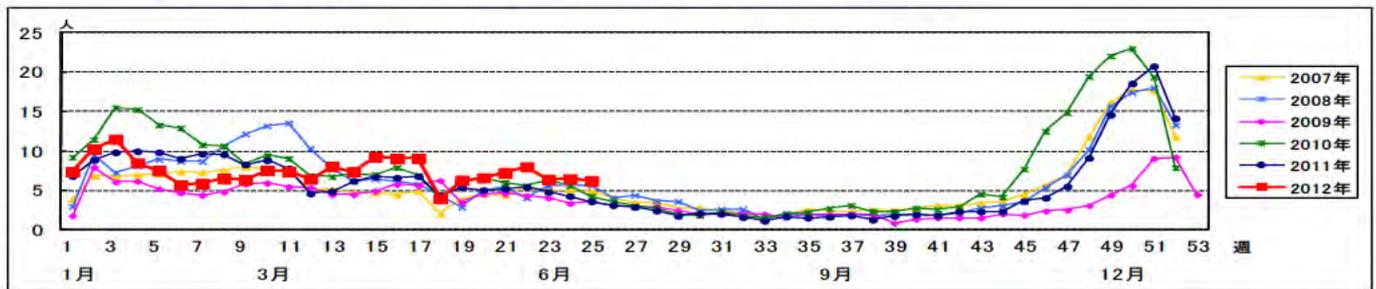


### < 感染性胃腸炎 >

市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり 20.0 以上)を大きく下回っていますが、例年に比べて報告数がやや多い状態が継続しています。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



### < 性感染症 >

5月は、性器クラミジア感染症は男性が25件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が0件でした。

### < 基幹定点週報 >

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60~1.40(例年定点あたり0.2~0.6程度で推移)と増加しました。最近では、22週0.83、23週0.88、24週0.82、25週0.90と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第22週0.00、23週2.50、24週1.00、25週2.00と、前シーズンの第22週0.50、第23週0.50、第24週1.00、25週0.33をやや上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

### < 基幹定点月報 >

5月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件(鼻咽頭ぬぐい液43件、ふん便6件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点6件(鼻咽頭ぬぐい液2件、髄液2件、気管吸引液1件、喀痰1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎23人、下気道炎11人、胃腸炎6人、りんご病3人、アデノウイルス感染症3人、ヘルパンギーナ2人、発疹症1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は急性肺炎2人、意識障害、心筋症疑い、風疹、不明熱各1人でした。

7月10日現在、小児科定点のアデノウイルス感染症患者2人、上気道炎患者2人、急性胃腸炎患者2人からアデノウイルスが分離されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

6月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が16件、定点以外の医療機関等からは11件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1&2、O157:H7 VT2、O145:H- VT1)、腸管毒素性大腸菌(O159:H- ST)、腸管病原性大腸菌(O119:H21)、カンピロバクターが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から10件で、A群溶血性レンサ球菌が9件検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(6月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	6月			2012年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						2
腸管病原性大腸菌		1			2	
腸管出血性大腸菌		2	6		2	14
腸管毒素原性大腸菌		1			2	
チフス菌					1	
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	3
カンピロバクター			2			2
コレラ菌						2
不検出	0	12	3	0	76	11

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	6月			2012年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	5		9		
	T6	4		6		
	T4			2		
	T12			10		
	T25			1		
	T28			3		
	T B3264			3		
B群溶血性レンサ球菌			2			13
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			4	
バンコマイシン耐性腸球菌					1	2
<i>Legionella pneumophila</i>			1			1
インフルエンザ菌				6		2
肺炎球菌				2		
黄色ブドウ球菌				1		
破傷風菌					1	
結核菌			3			3
<i>Mycobacterium avium</i>						1
不検出	1	0	12	15	6	28

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】